

学校だより

にしとべの丘

Nishi-Tobe no Oka

全国学力・学習状況調査特集号

横浜市立西中学校

2021(令和3)年

10月27日



れいわ ねんとぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちょうさ けっか
 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

校長 石川 博

ちょうさけっか がいよう
 【調査結果の概要】

れいわ ねん がつ にち ぜんこく こっこうしりつ ちゅうがく ねんせい たいしゅう ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちょうさ
 令和3年5月27日に全国の国公私立の中学3年生を対象に全国学力・学習状況調査
 が実施されました。今回の学校だよりでは、令和3年8月27日に公表された横浜市
 教育委員会による本市中学校の調査結果の概要の一部を本校の状況とともにお知らせ
 します。

きょうかべつちょうさけっか
 教科別調査結果

| | 国語 (%) | 数学 (%) |
|-------------------------------|--------|--------|
| にしちゅうがっこうへいきん 西中学校平均 | 67 | 57.2 |
| か ながわけんへいきん 神奈川県平均 | 65 | 58 |
| ぜんこくへいきん 全国平均 | 64.6 | 60 |
| にしちゅうがっこう 西中学校と ぜんこくとの差 | +2.4 | -2.8 |

ぜんこくへいきん
 全国平均に
 たい かくご
 対して、国語は
 うわまわ
 上回っています
 が ずうがく したまわ
 が数学は下回っ
 ていることが見
 えます。



きょうか ちょうさけっか から、ほんこう では かくご ぜんこくへいきん うわまわ
 教科の調査結果から、本校では国語が全国平均を上回っており、本校の授業展開が
 基礎基本を大切にしながら、班での話合いや発表を繰り返すなかで、「話す・聞く能力、
 書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能」の力が身に付いてきている
 ことがうかがえます。数学では全国平均を下回っており、今後の課題としてとらえて
 取り組んでいく必要があります。



【本校における結果報告と分析・課題】

前ページに引き続き、全国学力・学習状況調査の本校における調査結果をお知らせします。なお、この調査結果につきましては、報道等にもあります通り、測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえてとらえる必要があります。保護者・地域の皆様におかれましては、十分に御理解の上、受け止めていただきますようお願いいたします。

(1) 全国の正答率と比較して結果に特徴のある観点または領域(教科別)、および本校の課題と改善策

【国語】

全国平均を上回った問題(領域)
「話し合いの中での質問の意図を捉え、適切な発言について考える。」
「文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。」

課題が見られた問題(領域)
「書いた文章を互いに読み合う場面において、文章構成にどのように工夫があるかを捉える。」
「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。」

現状では授業に意欲的に取り組む生徒が多く、調査結果からも基本的な知識が身につけていることがうかがえます。「文章の流れを読み取ることや、スピーチや発表、話し合い活動」を通して、わかりやすい表現の仕方などを考える習慣も身につけています。

今後の課題は、文章構成の工夫について考えるとともに、文章に表れている見方や考え方について自分の考えをもつことにあります。そのために、読み手の立場に立って自分が書いた文章を見直し分かりやすい文章に整える活動や、文章の内容を理解して自分の考えを形成する活動などを通して、身につけた基礎知識をさらに高めていく授業に取り組んでいきたいと思っております。

【数学】

全国よりも上回った問題と出題の趣旨
4 「比例・反比例」
関数の意味を理解している
6(2) 「4つの数の和」
目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる
7(1) 「日常の問題(砂時計)」
与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる
9 「平行線と角(三角定規)」
平行線や角の性質を基に、図形を考察する

課題が顕著に見られた問題と出題の趣旨
6(3) 「4つの数の和」
数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる
7(2) 「日常の問題(砂時計)」
事柄を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

今回の調査結果では、多くの問題で全国平均を下回る結果となりました、中でも特に、「説明する」力に課題があると分析できます。

どの分野でも日頃から『なぜ、そうなるのか』という考え方を大切にし、論理的に説明すること、多面的・多角的に問題をとらえることを大切にして授業を行っています。しかし、実際の調査からはそれが定着していないことが読み取れます。このことから、学んだことや身に付けたことを、説明したり表現したりする場面を設定し、その力を伸ばしていくことが課題であると考えられます。

一方で、基本的な知識を問われる問題も全国平均を下回っていることから、授業では思考力を伸ばす時間も大切にしながらも、考える力の基礎基本となる知識・技能の定着にも力を入れていかなければならないことも考えられます。

本校の生徒は、日々の授業でよく話を聞き、丁寧に問題を解き進めている様子が見受けられます。一生懸命学習している成果が、子どもたちの数学的な力として定着していくよう、今後も指導していきたいと思っております。



(2) 生活習慣・学習習慣（生徒質問調査）の結果から

【全国と比べ、「意識が高い」と結果が出た質問項目】

- 学校に行くのは楽しいですか
- 普段（平日）1日あたりどれくらいの時間スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を、勉強のために使っていますか
- 学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思いますか
- 国語の勉強は好きですか
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会で役立つと思いますか
- 数学の勉強は好きですか
- 数学の勉強は大切だと思いますか

【全国と比べ、「意識が低い（課題）」と結果が出た質問項目】

- 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか
- 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか
- 自分に良いところはあると思いますか

本校の調査結果では、「普段（平日）1日あたりどれくらいの時間スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の質問事項に対する回答では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」を合わせると68%あり、全国平均の41%をかなり大きく上回っています。このことから、家庭学習の中でICTを利用して学習をする習慣が身に付いている生徒が多いと考えられます。

また、「土日など学校が休みの日に1日あたりどれくらいの時間勉強をしていますか（学習塾、インターネットを活用して学ぶ学習も含む）」に対する回答では、「4時間以上」「3時間以上」を合わせると52%となり、全国平均の26%を大きく上回る結果となっています。これらのことから、学習に対して意欲的に予習、復習に取り組んでいることがわかります。

さらに、「国語の勉強は好きですか」「数学の勉強は好きですか」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、国語で76%、数学で66%と全国平均を大きく上回っています。国語・数学ともに学習意欲が高く、ICT機器の活用を含め、充実した環境で授業に取り組んでいることがわかりました。

一方、課題としてとらえられる項目には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく関わっており、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」の質問について「感じた」と回答した割合は全国平均より12%高く、休校期間中に勉強に対して不安を感じる生徒が多かったことがわかりました。

さらに「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の質問に「はい」と回答した割合は、全国平均を10%下回っていました。

この現状を受け止め、学習への遅れの改善とともに学習相談の充実を図り、学習への不安を解決することに、より一層努めていきます。

「自分に良いところはありますか」の項目に「あてはまる」とした回答は全国平均を8%下回っていました。これに関しては、自己有用感やコミュニケーション力の希薄が大きく関係していると考えられます。行事等を含め、集団での活動がしにくい状況ではありますが、その中でもそれぞれの良さを認めあえる環境づくりを行い、自己有用感を高められるよう努めていきたいと思えます。

以上の内容を踏まえ、御家庭とも協力しながら指導の継続を行っていきたくないと考えています。

